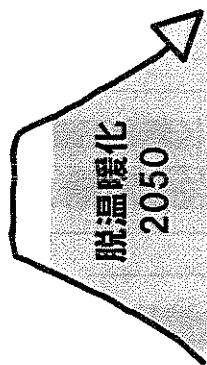
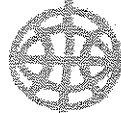


みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



2050年脱温暖化シナリオの検討

(2050年脱温暖化プロジェクト研究より)

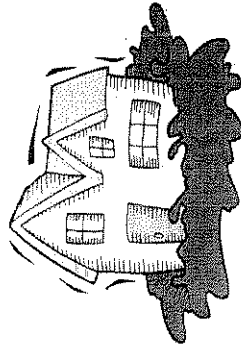
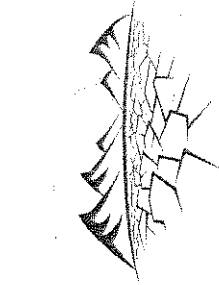
環境大臣 小池百合子

2005年6月17日

深刻な温暖化影響を回避するには、温度上昇を2°C以内に抑える必要

⇒ 国際的な共通認識へ

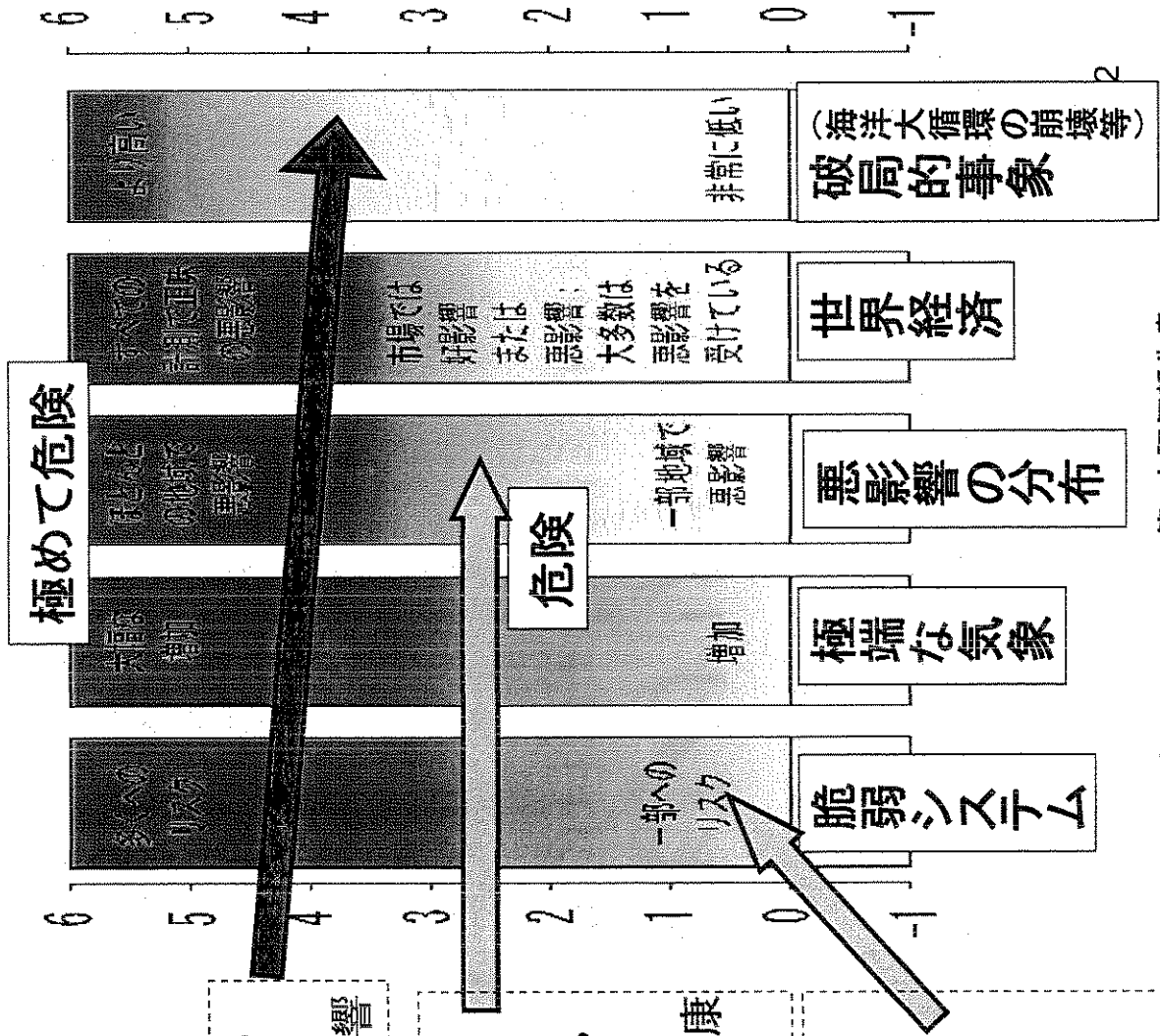
気候の様相の変化、海洋大循環の停止、南極・グリーンランド氷床の崩壊等の、大規模かつ不可逆な影響

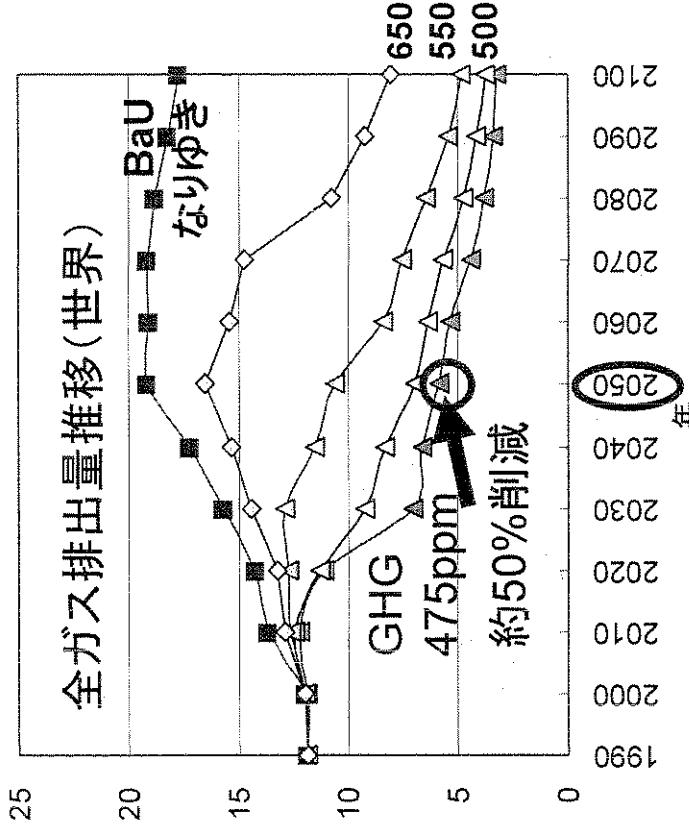
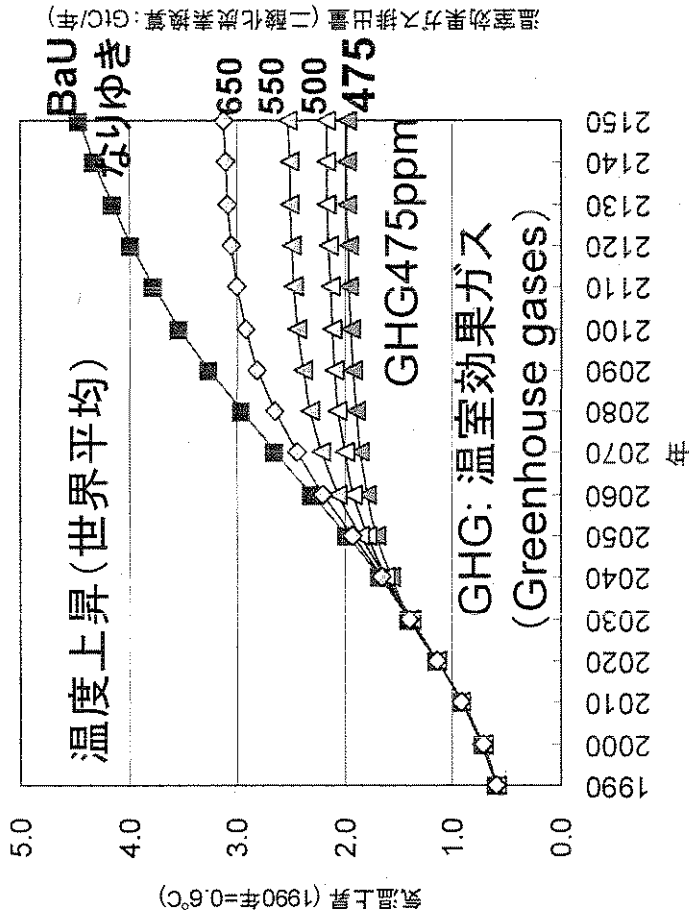


水文・水資源、農林水産業、人の健康などへの影響が多地域で発現



植生変化、サンゴ礁の白化などの脆弱な生態系への影響





・気温上昇を2°C以下に抑えるには、2050年の世界全体の温室効果ガス排出量を1990年レベルの50%以下に削減する必要があるとの試算

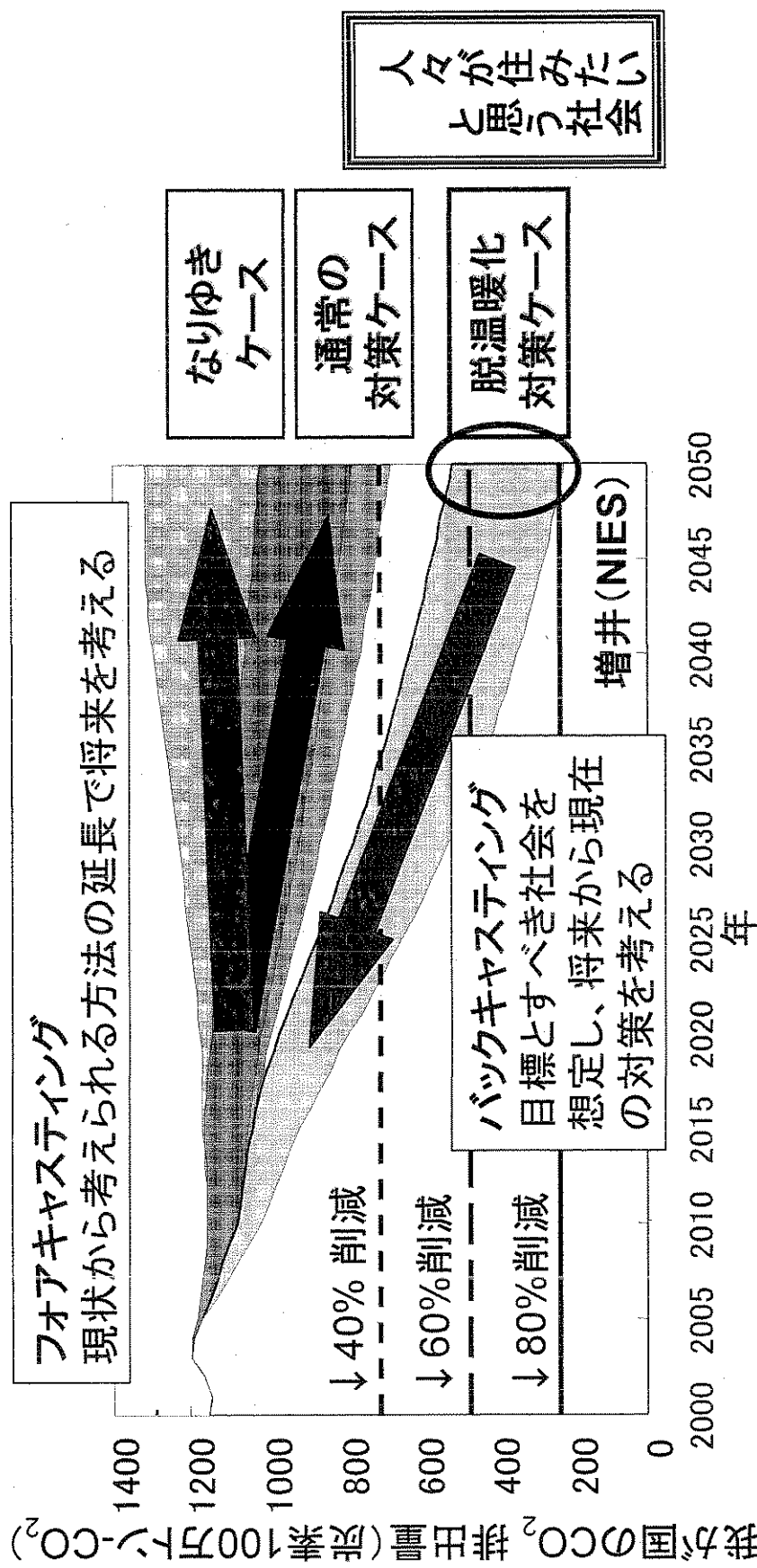
要があるとの試算

・日本はそれ以上(60-80%)の削減が求められる可能性。
 欧州諸国(英国60%削減、ドイツ80%削減、フランス75%削減)でも検討が進んでいる。

・2°Cに抑えても温度上昇の影響は起こる。適応策が必要になる。

AIM/Impact[policy]
 モデルによる結果
 脇岡(NIES)他

バックキャストイング：早めの方向設定が必要 技術革新と構造転換のためのインフラ整備・人材育成



どのような対策で大幅削減できるのか？

CO₂排出量 =

$$\frac{\text{CO}_2}{\text{エネルギー}}$$

$$\times \frac{\text{エネルギー}}{\text{活動量}}$$

$$\times \frac{\text{活動量}}{\text{人口}}$$

× 人口

炭素集約度の改善

CO₂を出さないエネルギー供給システムの導入

太陽光、風力、バイオマス、水素、原子力、炭素隔離貯留等

エネルギー集約度の改善

エネルギー依存の少ない経済活動の推進

省エネ機器、低公害車、都市交通システム・産業構造転換等

一人当たり活動量の見直し

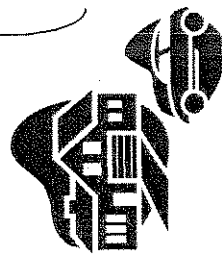
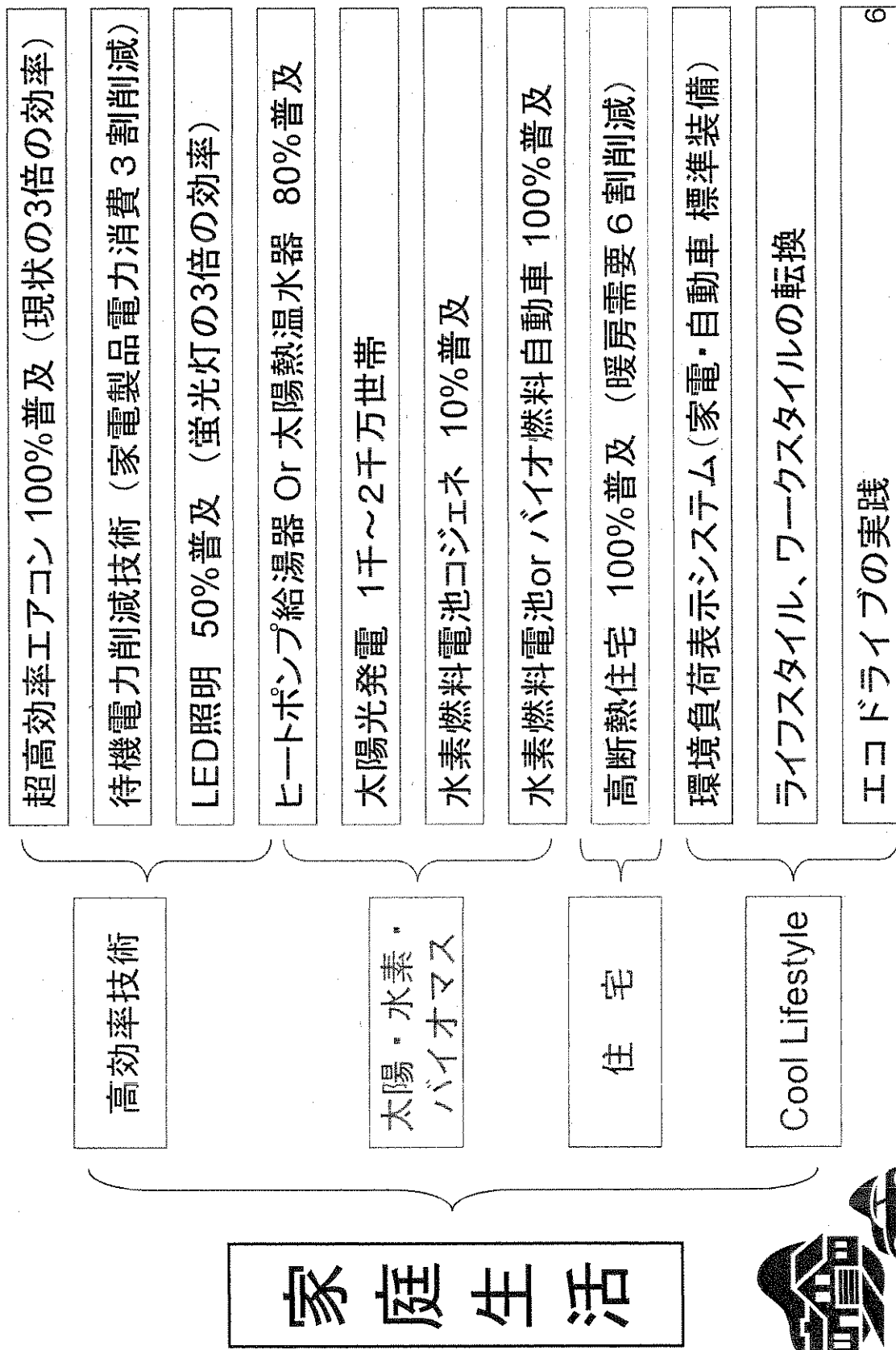
モノ消費による豊かさから、新たな豊かさへの転換

クールビズ、モットイナイ、足るを知る

技術革新 人材育成 構造転換

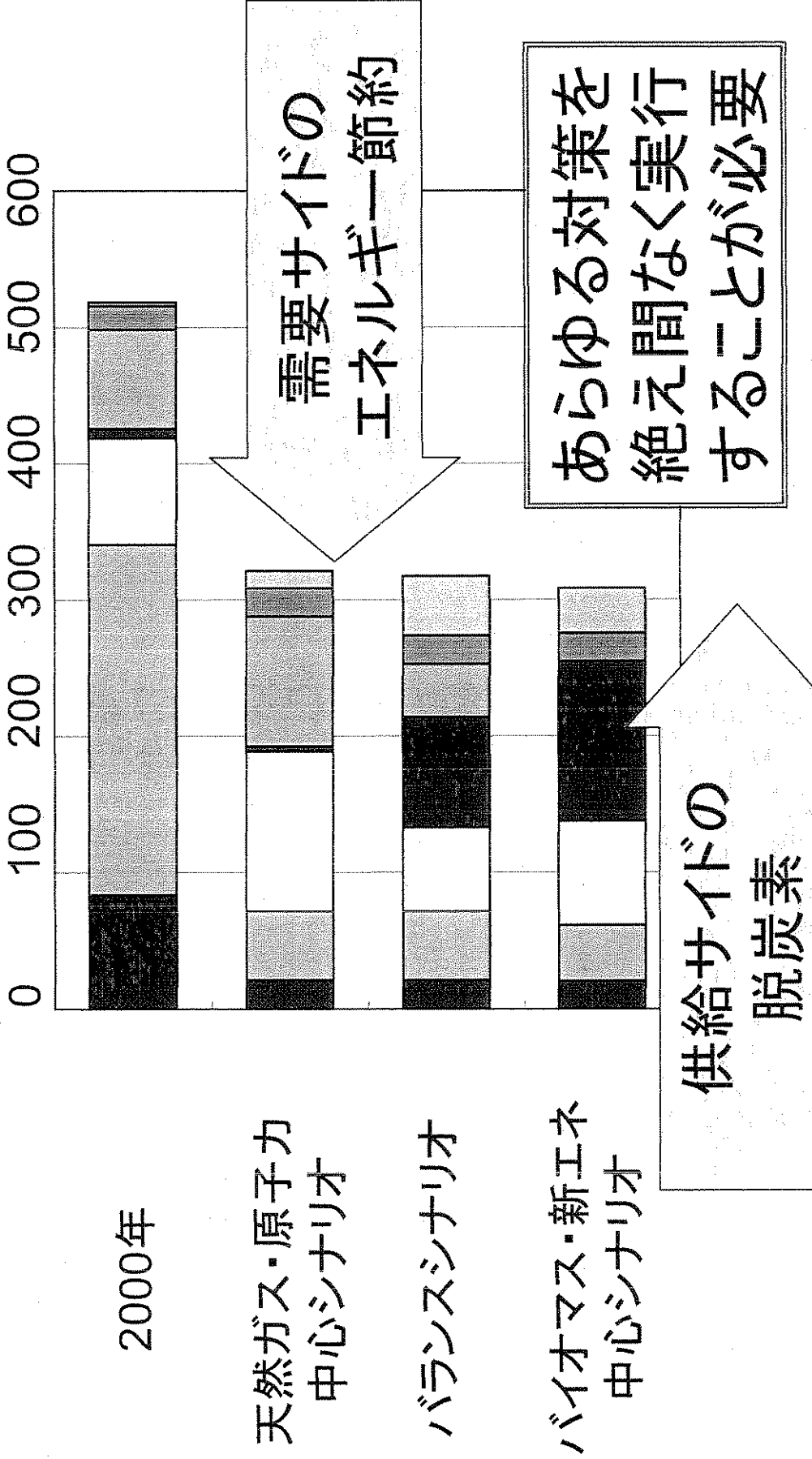
インフラ整備

具体的な対策メニューの一例



- 石炭
- バイオマス
- 太陽・風力
- 石油
- 原子力
- 天然ガス
- 水力

一次エネルギー供給量(石油換算百万トン)



2050年約70%削減を達成する一次エネルギー供給量の例